



萩市須佐地域

公民館だより

令和5年
12月
第605号

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 Tel.08387-6-2310 FAX08387-6-2030
弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 Tel.08387-8-2044 FAX08387-8-2212
特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット



上三原の田植えばやし保存会が 文部科学大臣賞表彰に輝く！

上三原の田植えばやし保存会のみなさん（令和3年10月撮影）

今月の話題

- 地域の伝統芸能を次世代へ！ 2P
「上三原の田植えばやし」
- 須佐美術展に約250名の来場者 3P
- 「ふるさと愛護スケッチ展」
「人権教育啓発作品」審査結果発表 4P
- 弥富地区体育大会開催!! 5P
- 育英小児童が幕末の頃の授業を体験！ 6P

12月の花

「シクラメン」



～花ことば～

「遠慮」「内気」
「気おくれ」
「はにかみ」です。

品種改良してできた
白の花の花言葉は、
「純粋」「綿密な判
断」「思いやり」だ
そうです。

H30.6月の生涯学習発表会
絵手紙の作品から

地域に伝わる伝統芸能

次世代につなげようを合言葉と。。。。!

上三原の田植えばやし保存会

この度、芸術文化の振興、文化財の保護等、地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、その功績をたたえ文部科学大臣が表彰する地域文化功労者表彰に、萩市須佐地域で長年にわたり、田植えばやしの伝統芸能を保存し、後世に伝えていく上三原の田植えばやし保存会（会長村岡一志）が、11月16日京都府立府民ホール アルティにおいて受賞しました。

上三原の田植えばやしについて

上三原の田植えばやし保存会が伝承する田植えばやしは、関ヶ原合戦後、毛利氏に従って石見益田の領主だった益田氏が須佐に移封（いほう）された折に同行し、移住した農民が伝えたものといわれています。

この踊りは、農民が田植えを行う際に、豊作を祈願したもので、秋の祭礼にはその初穂を氏神様に供えるという地域の伝統を今に受け継ぐものです。途中、時代の変化により一時期中断されましたが、明治時代後期に氏神様の神穀田の植付けの時の芸能として復活しました。



上三原の氏神様に奉納舞を演じる皆さん

稲の手植えが見られなくなった今日ですが、400年という長きにわたり踊り伝えられた庶民色豊かで素朴な踊りは大変貴重なものです。

また、田植えばやしの舞は、難しい代掻きの様子を、田植えの周りではやし立てる踊り子達が太鼓のバチさばきで表現する一方、つらい田植えを老若男女や健常者も障がい者も一緒に協力しながら田植え作業をなし届ける場面もあり、田植えばやしの奥深さを感じます。

保存会のこれまでの功績

上三原の田植えばやし保存会は、この伝統芸能を保存し、後世に伝えることを目的として、昭和46年に発足し、昭和47年には旧須佐町（現在は萩市）の無形文化財に、昭和51年には山口県無形民俗文化財として指定されました。（現在の会員は22名。）

過疎化や少子高齢化等による社会環境の変化等により、地域に伝承されてきた多くの伝統芸能の保存・継承が危ぶまれる中で、発足されてから今日に至るまで、この芸能の保存・継承に努めてこられました。

保存会ではこれまで、市内外のまつりやイベントに出演するとともに、中国四国ブロック民俗芸能大会へ県代表として2回（高知・鳥取）出演されるなど、文化財に対する理解と愛護思想の普及に貢献しています。

子ども田植えばやしの発足

また、平成10年から、後継者育成と地域学習活動の一環として地域の小学生に田植えばやしの実技指導を開始し、運動会での披露を行ってきました。平成12年には、翌年開催された山口きらら博への出演を目指し、衣装や道具を取り揃えた「子ども田植えばやし」が誕生し、保存会が熱心な指導を行ってきました。このよ

うに地元小学校の伝統行事として定着するようになり、伝統芸能の普及啓発に努めています。



育英小学校の児童にバチさばきを指導

また、平成25年に萩市須佐地域を襲った山口県北部豪雨災害や昨今のコロナ禍にも、田植えばやしを披露し、お囃子の音を響かせて、地域住民に元気を届けました。



村岡代表が頂いた「文部科学大臣表彰」の賞状
(11月16日京都府立府民ホールで受賞)

芸術の秋

力作が並ぶ作品展!

第39回須佐美術展開催

11月1日(水)から5日(日)の5日間、毎年恒例の須佐美術展が須佐公民館で開催されました。

今年、絵画や写真、書、ちぎり絵、手芸、陶芸など須佐地域の一般作品が27点、先に開催された萩市美術展の優秀作品と佳作などの作品10点による萩市美術展巡回作品、また、ポスターや習字の人権啓発作品が63点、須佐地域の保育園児や小・中学生によるふるさと愛護スケッチ展の作品120点の、合計220点が展示され、来場者の目を楽しませていました。



一般の作品をじっくり見つめる小学生

一般の作品の中では、ひときわ目立つ2つの大きな作品「R BABABAKA」は、お孫さんを題材にされた作品で、片方には窓枠があり、その下に何が描かれているかがとても気になる作品や、和紙の特徴を見事に活かしたちぎり絵、また、懐かしい歌を題材にして楽しく描かれた書などが印象的でした。

また、萩市美術展で「佳作」を受賞された、伊藤正久さん(中畑)の作品「Trophe'e」(トロフィー)は、私たちの知っている金や銀のカップではないけれど、独特な色の交割り方など土の魅力がたっぷり現れた陶器のカップで、とても素敵でした。

地域外から来られたお客さんの中で、「須佐は、こんなに作品を出す方がおられて、多彩な芸術をもって、いる人が多くてすごいな!いいものを見せていただいた」と褒めていただきました。子ども達の作品ばかりで、それぞれ個性あふれる作品ばかりで、保護者や家族の方が見に来られていました。



子どもの作品を探す保護者

作品紹介

萩市美術展で『佳作』を受賞



『Trophe'e』
伊藤正久(中畑)



『R BABABAKA』
河村ゆみ子(まてかた)
※2作品で1つの作品



『陽だまり』
田村倫子(本町上)



『みんなで歌おう』
あゆみ習字教室



『ほうずき』
上崎紀子(山根丁東)

ふるさと愛護スケッチ展
審査結果

今年も、須佐地域の保育園や小・中学校の子ども達の描いた作品の中から、より優れた作品が選ばれる審査が10月30日、須佐美術展実行委員で行われ、次のとおり決定しました。

【保育園の部】

- 金賞 須佐保年長 野村絆成
- 銀賞 須佐保年少 小林老海
- 銅賞 須佐保年中 佐々木琉伊

【小学校の部】

- 金賞 育英小1年 角野 誉
- 金賞 育英小4年 石戸結菜
- 金賞 育英小6年 山本光志朗
- 銀賞 育英小2年 豊田莉希
- 銀賞 育英小4年 大野丈一郎
- 銀賞 育英小6年 大谷梓紗
- 銅賞 育英小2年 中山龍勇
- 銅賞 育英小6年 山本ちはる

【中学生習字の部】

- 金賞 須佐中2年 伊藤夏空
- 銀賞 須佐中3年 井村莉子
- 銅賞 須佐中3年 大谷香歩



須佐中3年 岩本杏子



育英小1年 角野 誉



須佐保年長 野村絆成



人権教育啓発作品
審査結果

一方、10月12日(木)に行われた、令和5年度の人権教育啓発作品選考会で、応募された作品の中から次のとおり優秀作品が選ばれました。

【標語の部】

小学校低学年の部

『だいじょうぶ』

一人じゃないよ ぼくがいる

育英小2年 石戸結菜

小学校高学年の部

『あいさつは』

地いきやみんなの エネルギー

育英小5年 羽立悠泰

中学校の部

『相談に』

のつてあげたい 自分から

須佐中3年 大谷香歩

【ポスターの部】

小学校の部



育英小6年 田村悠喜



【習字の部】

小学校中学年の部



須佐中3年 井村莉子



育英小4年 篠原天真



育英小6年 岩本花梨



須佐中3年 志賀海偉斗

スポーツの秋

秋晴れの下、

好ショットの連続!



弥富地区体育大会

去る、10月29日(日)に、弥富グランドで令和5年度弥富地区体育大会が開催され、10地区から16チームの、約100名の皆さんが参加され、秋のすばらしい晴天の中、グラウンドゴルフを行いました。



チームワークを心がけ、必死のプレー!

新型コロナウイルスが5類に移行されましたが、インフルエンザの流行やコロナウイルスの感染が収まらないので、1ゲームごとプレーが終わるたび、



ワンショットの玉を見つめる参加者

ステイックとボールの消毒などを参加者の皆さんの協力を得ながら行いました。

競技は、16チーム参加なので、1ゲーム目を8チーム、2ゲーム目も8チームに分け2回ラウンドし、その合計点数で勝敗を競いました。

団体では、2区がゲームタイトル207点で優勝し、11区と12区が208点の同点でしたが、打数の差で12区が上回り準優勝、11区が3位という結果でした。

また、グラウンドは、きれいに草刈りもしてあって状態も良く、昨年度よりも7つ多い12のホールインワンができました。

今年の体育大会は、昨年と同様に地区の皆さんや役員を合わせて、多くの方が集った大会となりました。



優勝旗を手にする2区の皆さん

個人	1位	藤山 恒 (4区)	42点
	2位	新井 誠 (12区)	45点
	3位	坂本和見 (2区)	46点



参加された地区の皆さんも、秋の一日をグラウンドゴルフを通して、おしゃべりをしたり笑ったりと笑顔で過ごされていたのが印象に残りました。ご参加いただきました皆さん、大変お疲れ様でした。
なお大会の結果は次のとおりです。

【大会結果】

総合	優勝	2区	207点
	準優勝	12区	208点
		11区	208点

アップルパイ 作りに挑戦!

弥富放課後子ども教室

11月13日(月)、かものほら果樹園(小川平山台)へ行き、りんご狩りをしました。予定では、石窯を使ってアップルパイを焼く予定でしたが、悪天候のため、急きよ弥富交流促進センターの調理室に会場を移して作りました。

パイ生地の上りんごを敷き詰め、カスタードクリームを挟み、生地の間をフォークで押して留めてオーブンで焼きました。四角や三角、丸などいろんな形ができました。



上手にりんごを挟む児童たち

家庭では包丁を使うことがない低学年の児童も、自分でやりたいと包丁を持ち、りんごを切っていました。アップルパイが苦手な子もいましたが、「このアップルパイは美味しかったよ。」と感想を話していました。

かものほら果樹園の皆さん、ご指導有難うございました。

6年生14名が 幕末の授業を体験!

幕末体験「育英塾」

毎年、育英小学校の6年生が、幕末の頃の授業を体験する育英塾が、10月26日(木)益田館(萩藩永代家老旧宅)で開催されました。

当時を再現するため、服装も剣道着や浴衣に着替え、教本と習字道具を入れた風呂敷包みを手に持ち、育英小学校からは、わらぞうりを履いて益田館まで歩きました。

益田館での授業は、4時限に分かれ、最初の3時限は歴史に詳しい西村武正さん(山根丁東)の「須佐の歴史と育英館」の授業と習字を館内で行われました。

教本を読まれる前に、「昔は紙は



30年間指導されている西村武正先生



足のしびれを我慢して音読をする児童たち

貴重な資源で、本などを大事にしていた。授業を始める前は、教本にもお辞儀をしましょう」と昔の厳しい生活の様子が伝わってきました。

また、習字では、あらかじめ書きたい文字を決めてきてもらい、半紙1枚だけを使って文字を書いてもらいました。書いた文字は全員そろって「育英」の文字でした。

4時限目は、西田祐司さん(山根丁東)による剣術(剣道)の稽古を行いました。内容は、模擬刀で素振りの練習を体験しました。最初に、足のさばき方を習い、その後、模擬刀を持って「めん!」と大きな声で言いながら素振りを行いました。始める前に西田さんが、「今日は本物の刀を使うから気をつけて!」と言って稽古を始めたので、児童たちは最後までそれを信じて、真剣に稽古を

していました。

児童たちは、この体験を通して、昔の授業の厳しさや生活の苦しさを知り、今の幸せを改めて感じたことと思います。

児童の感想

○昔の人は、不慣れな中で一生懸命勉強しているのがすごい。今、良い環境で生活ができてるのは、昔の人の努力があつてこそだと思う。(男子)

○育英の「英才を育てる」という意味を知り、今まで努力してこなかった自分がくやしかった。(女子)

○もう一度体験するしたら、書道の時にあせらず、慎重に上手く書いてしっかりと正座を続けることに気をつけたい。(男子)

西村先生より

昔は厳しく育てられていたということをもつて体験できたと思う。これまで、誇りある育英小っ子と勉強できて良かったと思う。

西田先生より

育英小で卒業できることは意味のあること。これからも仲間を大事に(将来とも)、頑張つて勉強してほしい。

須佐図書館コーナー

★新刊入りしました!

『逝きたいな』

三浦明博 著

認知症が心配になるほどのもの忘れ、墓じまいをめぐる親戚騒動、定年後の夫とのうんざりする暮らし。それでも明日はやってくる。それどころか明後日も。人生100年時代の新・シニア像を描く全7編。

『六歳の俳句』

孫娘とじっちゃんのお十七音日記

かとうゆみ、加藤 宙 著

「かみなりや

つくえのしたで ダンゴムシ」

小学1年生から始めて小学生4年生で新聞の俳壇の常連に。祖父に教えられながら作ってきた孫娘の俳句とそのエピソードを収録。

『ベニーのみずたまぼうし』

しおみつさちか 著

きのこのベニーの自慢は、赤に白の水玉帽子。森のきのこの帽子祭りの日、色んな帽子が次々に披露されますが、ベニーはいつもの水玉帽子を脱ごうとしません。でもひよんなことから、ベニーの帽子がどこかへ飛んでしまい…。



防災学習体験（岩国市）

さつき学級視察研修

今回は、平成25年7月28日の豪雨災害を忘れないためや、防災についての知識の高揚を図るため、10月19日（木）、岩国市防災学習館へ22名が視察研修へ行きました。

久しぶりのお出かけということで、皆さんとても楽しみにされていた様子でした。天気も良く、絶好のお出かけ日和となり、バスの中でも、お隣さん同士で話に花が咲き、道中も楽しまれていました。

岩国市防災学習館見学では、まず防災シアターで洪水、高潮、津波や土砂災害などの恐ろしさを、立体的映像から学べるバーチャル体験シアターを見ることができ、皆さん衝撃を受けておられました。

次に、3グループに分かれて、避難体験（実際の火災のように、煙が充満した空間からの避難体験）、消火体験（映像に映し出された火災に向けて、訓練用消火器を使った消火体験）、また地震体験（大地震による揺れがどのようなものか、身をもって体験できる）のコーナーを順番に回り、どれも一つひとつじっくり



地震時の揺れを体験する参加者



映像を見ながら消火体験！

りと体験されていきました。

感想として、「火は火元の部分にしっかり水をかけんと消えんのじゃね」「とても勉強になった」などの声が聞かれました。この模擬体験を通して、防災に対する知識、技術、行動力を少しでも身につけることができたのではないかと思います。

午後は観光も兼ね、錦帯橋と道の駅むいかいち温泉周辺を散策して帰りました。とても楽しい一日でした。

味覚の秋 を楽しもう♪



弥富料理教室

10月23日（月）と30日（月）の2日間、弥富交流センターで、割烹「千代」の児玉勝美さん（12区出身）をお迎えし、料理教室を行いました。

今回は、食材が豊富な『秋』ということで、秋の食材を使って、「さわらのムニエル」「巻き肉じゃが」「さわらのつみれ汁」「バター香るさつまいもとむかごご飯」「さつまいものクリームブリュレ」5品の料理を教えて頂きました。

1回目は、10名の参加者があり2人組で5品の料理に挑戦しました。はじめに「料理のコツ」として、「使う調味料・材料は、メーカーや



出汁づくりのテクニックを学ぶ参加者

地域、採れた時期によって味が違うので、自分の舌で自分好みの味に仕上げるのが一番！」「白だし（かつおだし）は必ずしも必要ではなく、肉じゃが、筑前煮等の場合、最初に油で肉をしっかりと炒めることにより肉のうま味がでて、水だけで十分美味しく仕上がります！」と、色々なコツを教えて頂きました。

調理実習では、2人ずつの調理なので、レシピを見ながらそれぞれ役割分担をしっかりと決め、皆さんとても忙しそうに動き回っていたにもかかわらず、楽しそうに調理していました。出来上がった料理の味も「美味しくできて良かったね」と、満足されていました。

2回目は、須佐中学校の一年生と一緒に、和やかな雰囲気の中で5品の料理を作りました。さわらのムニエルにかけるソース作りでは、フライパンでの作り方を、児玉さんが実際に作って見せて下さると、皆さん「すごいねえ」と感動されていました。

この料理教室、「楽しかったねー」と大好評でした。来年度もお楽しみに！



美味しそうに出来ました！

子育て支援日記 テーマ／昔の遊びを伝えよう！

季節と共に……

須佐保育園長 高津喜代子



「黒川温泉みたいな良いところですねえ」と、配達に来た宅配のおじさんに声を掛けられる程、青い空に山と川、大自然に囲まれた環境。それが、私の生まれ育った場所。テレビ番組の名前を借りるなら「ポツンと一軒家」に近い「ポツンと四軒家」

(現在は、二軒屋ですが……)。

こんなすばらしい場所だったら、自然と共に！季節と共に！遊ばない手はないと思いませんか？と言えは聞こえはいいのですが、そうせざるを得なかったというか、それしかなかったから、という方が正しいかもしれません。

しかし、今でも鮮明に覚えているほど、楽しい思い出いっぱいの子どもの時代だったと思います。では、春夏秋冬、季節と共にどんな遊びをしてきたかを紹介します。

春は、レンゲいっぱいの田んぼで走り回ったり、レンゲを摘んでのま

まごと遊び。庭先にごさを敷いてのままごと遊びは、私の唯一の女の子らしい遊びでした。

夏は、もつぱら川遊び。家の目の前が、鮎・ウナギが獲れる田万川の上流域という環境だったせいで、夏休みの宿題はそっちのけ、毎日のように川で遊んでいた記憶しかありません。

岩の上からは、ダイビング！ダムのようにせき止められた箇所は、絶好の波乗りスポット。まさしく、自然の「ウォータースライダー」。浮き輪が外れ、溺れかけたことも……。



泳ぎに飽きたら、上流に向かって川を登り、下りはひたすら滑りながらのように、座り姿勢で石を滑りながら帰るなど、沢登りみたいなこともしていました。「あの石、かめに見える〜」なんて発見もあり、これも自然の醍醐味でしょうか。とにかく、目の前にある自然物全てが、遊び場だったような気がします。

秋は、やっぱり山登り。というか、私の場合は探検でしたが。家の周りほとにかく山。一つ下の弟と一緒に、しよつちゅう山に入っては、基地を作ったりして遊んでいました。今は亡き祖父について登ったことも思い出されます。

そういえば、一本不思議な柿の木もあつたなあ。なぜか地面を這うように、ビヨーン、ビヨーンと揺れるんですよね。これぞ、自然の遊具。こんな事でも楽しめましたね。

ある時は、ロッククライミング。大きな岩に抱きつきながら、狭い場所を渡ったことも。落ちたら大怪我どころではなかったなあ、今思えばゾツとします。

そして冬は、雪遊び。我が家には、スキーなんて道具がなかった。代わりに肥料袋を使つてのそり遊び。お尻を濡らさないために、わらも敷いて。

最初は、まずコース作りから。新雪の上を足で踏み固め、次は肥料袋を使って、少しづつ滑ってみる。これを繰り返すことで、少しづつコースが出来上がっていきます。有り難いことに、家の周りが坂だらけだったもので、色んなコースを楽しみむことができました。カーブが上手く曲がれるように、雪を固めた箇所を私が何度も突き破って滑り、姉に文句を言われたものです。



こうして、何度も滑っているうちに、ズボンにはびちやびちや！仕方なく家に入つて着替え……。ではなく、そのまま「掘りごたつ」にもぐり込んでズボンを乾かし、また外に出て滑るの繰り返し。「寒くて無理！」となつて初めて、終了！って感じだったのででしょうか。

以上、私の少年時代のような遊びを紹介しましたが、やはり、恵まれた環境があつたからこそその遊びではないでしょうか。今のような、ネット社会だったら？果たしてこれだけの遊びをしてただろうか？正解は分かりませんが、大人になつてからも、「あの頃楽しかったなあ〜！」と、思い出せる遊びを、今の子ども達にも経験してほしいと思います。



旧須佐町中央公民館

図書館本格的な工事始まる

平成9年須佐図書館改築一期工事として、屋根部分の改修がスタートし、外壁へと続きました。今までは、想像もつかない大規模改修です。準備委員会のメンバーも、どうなるのか不安な様子。しかし、オープンまでにやっておかないといけないことは



屋根・外壁の解体から工事スタート

沢山ありました。一つは住民が、いつでも自由に利用できる住民の生活サイクルに合わせたシステム

の構築、これは町長の希望であり、約束でもり、今やらなければならぬ必須条件の一つでもあります。



他館での準備委員会の視察は続く...

そのためには、長野県川上村での24時間ビデオ貸出装置の視察を活かしたシステムの開発が必要となり、準備委員会では、24時間開けることの議論が活発化し、「どうしたら夜間に入れるのか」「ホテルのプリペイドカードを利用したらどうか」など入退室だけでも色々な議題が交わされました。また、「夜間トイレに行きたくなったら」「具合が悪くなった時緊急連絡はどうする」など、自分に置き

換えて、具体的な問題をみんなで考え、本当に手づくりである思いを感じた時期でした。

※長野県川上村の夜間開館システムは、T文科大学の実験として、採用されたシステム(10月号で紹介済)です。

図書館職員の採用試験始まる

次に町長との約束の一つは、図書館職員採用でした。

図書館の専門職としての図書館司書の募集は、秋までには済ませたかたのですが、まだ構想が固まらず周りからは、夢のような構想に準備が遅れ、教育長としては「どうしても今年度募集をかけるのか、次年度に入っても良いのでは・・・？」との思いでした。

しかし、年度が1年遅ければ、開館後の採用となり、開館までにやることとがいっぱいあり、無理は承知でも、大学の就職活動は終わっているのだが・・・。司書資格取得可能な山口県内の短期大学を回り、募集活動を行いました。

結局5名の受験者があり、試験は小論文(作文)と面接となり、採用者は登録名簿への登録となりました。旧法務局では、須佐図書館として

の改修作業が始まったばかり、まさにリサイクル施設としての解体中、夢のような「24時間図書館」とは程遠いものでした。

受験者の辞退が続く

翌日には、受験者への試験結果を郵送する準備に取り掛かっていました。そうすると、登録上位(発送していかない)の方が、まず辞退の連絡が入る始末。1月まで就職が決まらない学生にとつて形もできていない図書館を就職先にするには不安を感じられたのかもしれませんが、残念ですが後の方に期待をもちましたが、事態は最悪の結果になりました。次から次へと辞退が続き、不安な一抹が的中する事態に・・・。

教育長は、「やはり次年度早い段階で募集をしよう」と、あきらめムードでしたが、こちらとしては、準備の段階から絡んでいないとすべてが1年遅れとなる。多分1年遅れたらこの24時間図書館の反響はなかったものと思われまます。

結果的には、4月から本格的な準備に加わって頂く事ができ、2月末のオープンに向けて動き出しました。

(つづく)

タムラの

まうちまき



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタムラ』が、わが町を紹介します。今回も前回に引き続き須佐出身の実業家「手塚猛昌の活躍」について紹介します。

手塚猛昌を支えた人々たち

手塚猛昌は、生涯多くの人達と出会い、その出会いを大切にしてきた人と言えます。

益田家の分家橋詰家の益田英治は、福澤諭吉との接点をつくり、福澤の友人である庄田平五郎は、手塚が実業家として躍進するための支援をした人でもあります。

益田英治との接点

手塚が慶應義塾生活を送る中で、福澤諭吉との接点をとりもつたのが、益田英治でした。英治は、安政3年(1856)益田家の分家橋詰益田

家(現保健センターの位置)という裕福な環境の中で生まれ、手塚より3歳年下でした。

英治は、明治5年11月慶應義塾に入社(入学)し、明治10年7月本科を卒業し、そのまま義塾の教員となり、明治22年から生徒と塾を統括管理する塾監職と会計主任を務めました。また、その後大学の創立に関しては、福澤諭吉の片腕となり諭吉からの信頼も強かったと言われています。



手塚の保証人益田英治

資料によると、こうして英治が義塾で勤める中、英治の卒業

から8年後に猛昌が慶應義塾に入塾することとなります。慶應義塾入社帳には、明治18年10月28日入社となっており、證人氏名欄には益田英治と記載されています。

猛昌が入社するまでの経緯ははっきりしませんが、相手は、益田家の分家、片や猛昌は下級武士、それを仲介したのは育英館の学頭坂上忠介だったかもしれません。

手塚と英次との交流の中、貧乏書生の猛昌に幼稚舎教師や福澤家の子ども達の家庭教師など重要な橋

渡しを行ったようです。

福澤諭吉との出会い

なぜ福澤諭吉の慶應義塾を目指したのか。手塚が幼少の時、自分の身分では郷校育英館で学ぶことは不可能でしたが、当時の益田家33代親施は、吉田松陰との交流が強く育英館の教育にも活かししました。

松陰の掲げる「志」は、身分に関係なく誰しも目標を持つことが大切と唱え、一方福澤諭吉は「学問のすゝめ」の中で「新しい時代の身分は生まれではなく、学問を通じた個人の見識による」と述べています。両者の中で、何か相通じるものを手塚は感じ慶應義塾を目指し福澤に師事したものだと考えられます。こうして、猛昌は慶應義塾別科での3年間の生活の中で、多くの仲間と出会い、このあと実業家としてこの仲間たちとの人脈を生かし、数々の事業を展開していくこととなります。

猛昌は、明治23年(1890)庚寅新誌社(庚寅の年に出来た)を設立し、政治経済雑誌を発行しますが、中々軌道には乗らなかつたようですが、福澤の勧めで転機が訪れます。

資金面の支援庄田平五郎

明治27年鉄道網は私鉄を中心に日本全国へと張り廻りつつあるなか列車の出発到着時刻をつなぐネットワークは構築されておらず、行き着いたところで、次の列車を待つといった具合で手塚自身も何度も不便を感じていました。そのような状況下において、外国事情に詳しい恩師福澤諭吉がイギリスの時刻表を手本とした時刻表の発行を勧めました。資金面での後押しは、臼杵藩(大分)出身の庄田平五郎でした。



三菱の番頭役庄田平五郎

庄田は、明治3年(1870)23歳で慶應義塾に入り、わずか4ヶ月後には義塾の教師に抜擢された逸材でした。卒業後は初期の三菱の経営戦略を担い、長崎造船の所長を務めるなど活躍しました。手塚とは慶應義塾の先輩後輩との繋がりででしたが、庄田は創刊号に祝辞を寄せ、大いに発行を喜んでいました。

こうした向学心にもえ、近代日本の発展に貢献した、手塚の偉業を後世に伝える必要を感じます。(終)

須佐地域の安全・安心なまちづくりを応援する！

わがまちの駐在さん



新 衛ちゃん、繁ちゃんが行く！



師走は、誰もが年の瀬をひかえて、何かと気忙しく慌ただしくなる時期です。安らかな気持ちで、明るく平穏な年末年始を迎えたいものです。

そこで、交通事故防止、犯罪被害防止等についてお話しします。

須佐駐在所：衛藤 【交通事故防止について】

今年10月には、2日連続して、国道191号の交差点で右折と直進の車同士が衝突する事故が発生しました。これらは幸いにも、重大な事故にはなりませんでした。少しタイミングが間違えば、人命にかかる事故に発展していた可能性があります。

そこで、交通事故防止のため、次の点について注意してください。

ドライバーの皆さん

- 信号機がある交差点（駅前、中津）では、信号が青色であっても、対向車、歩行者や自転車がどのような行動をするかは予測不能ですので、必ず減速して進入しましょう。
- 信号機のない交差点（下三原）では、通り慣れていない方は脇道の存在すら気付かないおそれがあることから、国道側は減速、脇道側は確実な一時停止を実践してください。

歩行者の皆さん

- 横断歩道を渡っているから大丈夫と過信せず、必ずハンドサイン、左右の安全確認を行って、安全を確かめてから横断するように習慣付けてください。
- 交通事故防止に有効な反射材付き用品の着用を習慣付けてください。

自転車利用の皆さん

- 重大事故防止のため、ヘルメットを必ず着用するとともに、歩行者がいる際には、必ず減速又は自転車から降りて、安全に通行してください。
- 道路を横断する際には、信号機のある横断歩道であれば必ず信号を守って、横断歩道がない場所では、一時停止のうえ、直角に最短距離で、いずれも左右の安全確認を励行してください。



弥富駐在所：繁田 【犯罪被害防止について】

年末年始を迎えるに当たり、侵入盗やうそ電話詐欺等の犯罪が多くなると危惧されます。これらの犯罪の被害者にならないための防犯対策として、以下の対策が有効です。

侵入盗被害防止対策

- 外出中の鍵かけはもちろん、在宅中であっても鍵かけを徹底する。
- 自宅の玄関や庭にセンサーライトや防犯カメラ等、窓に補助カギを設置する。
- 庭先に砂利を敷く。

うそ電話詐欺被害防止対策

うそ電話詐欺被害の対策の1つとして、現在、NTT西日本画70歳以上の契約者又はその同居の契約者を対象に、『ナンバー・ディスプレイ、ナンバー・リクエスト等の月額利用料及び工事費を無料で提供しているサービス』があります。

各サービスの契約申込先については、

NTT西日本 フリーダイヤル 0120-931-965

となります。うそ電話詐欺被害の防犯対策として非常に友好的で、対象の方であれば無料でサービスを受けることができるので、是非ご利用ください。





12月は、冬・春野菜の冬越し防寒対策に十分注意する季節ですので、適切な作業を行いましょう。

冬越しする野菜の寒さ対策

○被覆資材による防寒

生育期の前半にある野菜には、特に大事な作業です。

- ①不織布による作物への直接のベタ掛け又はパイプトンネルによる防寒。
- ②寒冷紗による防寒(上から直接灌水ができる利点がある)。
- ③ビニールトンネルの場合は好天日には裾を開ける。



ビニールトンネルによる防寒▶

○土寄せなどによる防寒

- ①ダイコン、ニンジン、カブなどは、地上に出ている肩の部分に土寄せをしてやる。
- ②ハクサイは、畑でそのまま外葉全体をワラ、ヒモ等でしばってやる。
- ③エンドウは、株元に敷き草やモミガラを敷いてやる。また、寒風よけに、笹竹(生葉がついたもの)を作物の北側に立てることも効果的である。



株元へできるだけ土を寄せる。

○暴風対策

- ①エンドウマメの場合は支柱を早目に立て、株元が風でふり回されないように結束する。
- ②ハウレンソウに対する被覆資材による防風、防寒対策は、葉を傷めないために大切な作業である。エンドウマメもソラマメも、うまく寒い冬を越えてほしいものです。



エンドウマメのワラ囲い(防風)▶

漢字クイズ?

次の①~③の図の、「○」に当てはまる漢字を入れてください。その後、「○」に当てはめた3つの漢字を並べ替えてできる、3字熟語は何でしょうか。(答えは、最終ページ)

①

桜 晩 風

↙ ↓ ↘

○

秋?

②

傷 銘 入

↙ ↓ ↘

○

③

群 金 肉

↙ ↓ ↘

○

地域トピックス

餅まきに大歓声!

須佐地域ふるさとまつり

11月3日(金)文化の日、隔年で行われているまつりが、須佐総合事務所北側駐車場で開催されました。ステージでは、須佐地域の子どもの遊戯や子ども田植えばやし、神楽、地元出身者による大衆劇場、また午後からは、11名の応募によるのど自慢大会などがありました。会場内には、地元特産物などの出店も並び、多くのお客さんで賑わいました。



餅をまく方も拾う方も必死!

コロナウイルス感染症が5類に移行され、イベント最後は久しぶりの餅まきも盛大に行われ、賑やかなお祭りとなりました。

生涯学習作品コーナー

【俳句】

メモを手にポインセチアの赤に酔う
(松原) 澄川千枝



忘れてた断捨離しすぎて服がない
(押谷) 中村 恵

秋晴れに掃いても掃いても枯れ葉散る

(入江) 緒方恵美子

【短歌】

仏壇へお酒もそえてお供えし

義父の命日秋晴れの朝
(8区) 鈴木ミツヨ

社会面開くと今日も強盗が

安全神話どこえやら
(青葉台) 田村雅利

【川柳】

手がしびれ足腰痛むに口元気!
(山根丁東) ゆめはるか

【子ども俳句】

なべ食べてげんきが出たよモリモリと
(3年) 廣田清修



はっぴようかい男ひとりのさみしいげき

(1年) 角野 誉

須佐の偉人伝 大塚均 81

このコーナーでは、切手デザインの大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。



鈴鹿 園 定 公 園 郵 便 切 手
SUZUKA QUASI-NATIONAL PARK
POSTAGE STAMPS



1973

切手デザイン大塚均



大塚 均 (1911-1998)

鈴鹿国定公園郵便切手

本公園は、三重、滋賀の県境にそびえる鈴鹿山脈の主要部を占め、御在所岳を中心に、北へ釈迦が岳、竜が岳、藤原岳、南に鎌が岳、鈴鹿峠をへだてて油日岳など千メートル級の諸峰を連ねる山岳景観と東西両側に展開する変化に富む渓谷美が、四季を通じ豊かな自然の魅力を見せている。昭和43年7月22日国定公園に指定された。昭和48年5月25日20円切手2種3,200万枚発行。大塚均62歳時の作品です。

2023

12月 地域カレンダー

● = 須佐公民館 ● = 弥富公民館 ● = 生き生き教室
● = 学校・保育園行事 ● = スポーツ関係 保セ = 保健センター
● = 子ども対象行事 弥G = 弥富グラウンド

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	 今年もあと少し、 元気で年を越しましょう！				1 ◎手芸クラブ 9:30	2 ●学 須佐保生活発表会 ■須佐駅前イルミネーション
3	4 ◎麻雀クラブ 13:00 ◎ピンポンクラブ 13:30	5 	6 ◎ついで会 10:00	7	8 ◎囲碁・将棋 13:30	9
10 	11 ◎エゴクラブ 9:30 ◎ピンポンクラブ 13:30 ◎麻雀クラブ 13:00	12 ●須 パッチサークル 9:30	13 ◎歩こう会 8:45 ●須 色えんぴつ画 13:30	14 	15 ◎手芸クラブ 9:30	16
17 ●須 須佐みことマラソン大会 家庭の日	18 ◎麻雀クラブ 13:00 ◎ピンポンクラブ 13:30 ●弥 放課後子ども教室	19 ●須 あおば勉強室 13:00 (保セ)	20 ◎音楽療法 13:30	21 ◎生き活体操 8:45	22 ◎囲碁・将棋 13:30 ●学 小・中学校終業式	23 ●弥 子ども大会 9:00
24 ■のびのび教室 「しめ飾り作り」(須公)	25 	26	27 	28 ■須佐特産暮の市 (須佐駅前) ※公務納め	29 	30
31						

伝言板

●のびのび教室

「お正月のしめ飾り作り」

○とき 12月24日(日)

午前9時から

○ところ 須佐公民館

○持ち物 300円、はさみ
持ち帰り袋

○申込み 12月18日(月)まで
に須佐公民館TEL⑥2310へ

●須佐さつき学級

「2024年度 オリジナルカレンダー作り」

○とき 令和6年
午前9時30分
午後3時30分

○ところ 須佐公民館

○持ち物 材料費500円
はさみ、のり

○申込み・お問い合わせは、回
覧チラシをご覧ください。



★クイズのこたえ

- ① 秋
- ② 刀
- ③ 魚

●三字熟語は

さんま

秋刀魚

でした



毎月第3日曜日は「家庭の日」

今月は「17日」です

★家族みんなで過ごしましょう！

須佐地域の人口 (R5.10月末現在)

	世帯数	人口	前月比
須佐	956戸	1,719人	(△5人)
弥富	220戸	407人	(△1人)
合計	1,176戸	2,126人	(△6人)
昨年比	世帯数△36人	人数△102人	

編集後記

12月22日は「冬至(とうじ)」ですね。この日は、一年の中で一番昼間が短い日ですが、翌日から日が長くなると言われています。また、冬至と言えば「かぼちゃ」に「ゆず湯」ですね。

かぼちゃは、栄養が豊富なことから冬至に食べると風邪や脳血管疾患などにならないとも言われています。また、柚子を入れたお風呂につかると、血行を促進して冷え性を緩和したり、体を温めてかぜ予防をしたり、美肌効果にもいいようです。

冬至には是非、ゆず湯につかって体も心も温まりましょう。
(暮らし歳時記から)

